

1 学校教育目標

○つよい子 ○考える子 ○やさしい子 ○はたらく子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって「楽しいと感ずることが出来る学校」(わかる・できる・うれしい・つながる) ・保護者や地域にとって「信頼できる学校」(安全・安心・健全) ・教職員にとって「はたらきがいのある学校」(切磋琢磨・資質向上・充実感・達成感)
○児童・生徒像	<p><かしこく> ・基礎学力が身に付いた児童(様々な知識・技能、聞く・話す・読む・書く・計算する力)</p> <p><やさしく> ・確かな学力が身に付いた児童(思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力・行動力・学ぶ意欲など)</p> <p><たくましく> ・場に応じた言葉遣いのできる児童(あいさつをする・言葉遣いに気をつける)</p> <p><たくましく> ・自分も人も大切にできる児童(自信をもつ・人と関わり合う・人を思いやる心・自然に親しむ)</p> <p><たくましく> ・よりよい生活習慣を身に付けた児童(心身の健康を保つ・安全な生活を送る・明るく生活する)</p> <p><たくましく> ・自ら体を動かし体力の向上に努力する児童(進んで遊ぶ、体を動かす、運動する)</p>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化を感じ取り、時代を見通した対応ができる資質・能力を身につけた教師。 ・学習指導力、児童理解力、生活・進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 児童について コロナ禍で3か月の休校があったが、基礎的な学力は着実に身に付いている。習熟が十分な児童への発展的な学習の充実、習熟が不十分な児童への丁寧な個別指導の徹底を図っていく。他者とかかわる学習、運動、行事等に制約があったため、学ぶ楽しさや体力向上は課題が残った。
- 教師について 臨時休業、分散登校、休校明け等、変則的な学校運営の中、教員は臨機応変に動画、オンライン等を活用しながら、新しいスタイルに適応してきた。感染防止のため、学び合う活動が十分にはできなかったことが課題であり、今後はICT機器を活用して対応していきたい。不登校傾向の児童が増えたため、保護者、SC、教員同士が連携しながら対応している。
- 保護者・地域について 地域の学校としての誇りをもち、子どもたちの成長のために惜しみない愛情をもって接してくれている。コロナ禍の状況をよく理解していただき、子供たち、教職員を応援していただいている。昨年度は行事もほとんど行えず、児童や学校の様子を見に来ていただくことができなかった。

【前年度の成果と課題】

重点的な取組事項－1 学力向上

- ・2月予備調査通過率 **国語83%、算数89.6%**で目標の78%を国語、算数ともに大きく上回り、達成できた。
- ・学力向上アクションプランに示した4項目は、**◎：十分達成が1項目、○：おおむね達成が3項目**であり、学力向上に関してはおおむね達成できたと考える。

重点的な取組事項－2 豊かな心

- ・児童の豊かな人間性の育成を目指した4項目の取組は、**○：おおむね達成が4項目**であり、おおむね達成できたと考える。人とのかかわりについては、学級内にとどまることが多く今後の課題である。今年度は、感染防止に配慮しながらも行事や交流活動を実施していく方法を検討していく。

重点的な取組事項－3 たくましい体

- ・自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成を目指した3項目の取組は、**○：おおむね達成が3項目**であり、おおむね達成できたと考える。児童が楽しみながら運動に取り組む機会が少なかったため、指導計画の見直しや工夫した方法を検討していく。コロナ禍のため、健康への関心は高かった。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度）				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	たくましい体の育成	◎	◎	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> 4月実施の足立区学力向上に関する総合調査結果の目標達成 2月の予備調査結果の目標達成 		<ul style="list-style-type: none"> 4月本調査 通過率 国語88%算数88% 2月予備調査 通過率 国語80%算数80% 		4月区調査 89.7% (国88.8%、算90.5%) 2月予備調査 79.8% (国82.4%、算77.3%)		<ul style="list-style-type: none"> 目標については国語+0.8%、算数+2.5%上回り、学力の定着は進んでいる。通過できていない児童への個別指導を充実させ、2月予備調査は国語は達成、算数はやや下回った。4月に向け、つまづきを解消していく。 学習の定着状況と具体的な取組は6(1)を参照 		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	全校百マス計算大会	全学年 算数	2か月に1回程度	【指導者体制】 担任+専科 【取組のねらい・目的】 基礎学力の定着 朝パワーアップ時	・標準タイムの達成率	・年間6回実施 ・各学年の標準タイムを8割の児童が超える	標準タイム達成児童 1年84% 2年74% 3年71% 4年81% 5年91% 6年90% <u>全校81.8%</u>	・全校で一斉に取り組むことで意欲は高まっている。全体として8割以上が達成した。2学年がやや下回っている。達成できなかった児童の定着を今後進める。	○

2 新規	I C T 教 育の推進	全学年 全教科	通年	【指導者体制】 全教員 【取り組みのねらい・目的】 I C T機器を活用し、わかり やすい授業、プログラミング 学習等を行う。 ①研究授業（低中高） ②Gsuite を使った授業 ③プログラミング学習	①児童アンケ ート ②③実施回数	① I C T機器を使 って学習できる児 童、好きな児童 各 80%以上 ②Gsuite を使っ た授業 3年以上 週1回 ③プログラミング 低中：2単元以上 高：3単元以上	①ICT 機器 学習できる 95.6%、 好きな児童 92.4% ②Gsuite 授業 3年以上 週3.1回 ③プログラミング学習 低中：2単元 高：3単元	・毎日児童はクロム ブックを使って授 業や学習に取り組 んでいる。係活動や 委員会活動など自 主的に活用する姿 もみられる。 ・プログラミングは 全学年で実施。 Google 系アプリの 活用やや片寄っ たのでバランスを 取っていく。	◎
3 継続	読書活動の 充実	①読語り (全) ②読書旬 間・(全) ③調べる 学習・ (4年～)	①4月か ら ②年2回 設定 ③夏季 休業中	【指導者体制】 ①図書ボランティア ②担任、保護者 【取り組みのねらい・目的】 ①②本に親しみ、読書の習慣 を身に付ける。 ③興味関心のある本に触れ る機会を作る。	①② ・児童アンケ ート ・読書冊数 ③作品の出品	①② ・読書に肯定的な回 答 90%以上 ・目標冊数クリア児 童 80%以上 ③コンクールの出 品 100人以上	・読書に肯定的な児童 87.7% (84.1) ・目標冊数達成 87% (82.3) ・コンクール出品 138人 (114)	・読書が好きな児 童は 9 割に近づい ている。ICT 導入以 降、休み時間の過 ぎし方は、読書と ICT の二極化傾向が見 られる。	○
4 継続	授業改善	①思考ツ ールの活 用(全) ②足立ス タンダー ドの徹底 ③ I C T 機器の活 用(全)	①② 通年	【指導者体制】 全教員 【取り組みのねらい・目的】 ①思考を発散し、まとめるス キルを身につけ、話し合い活 動を充実させる。 ②めあて→振り返り・まとめ の質の向上 ③ I C T機器を活用した授 業	①授業での活 用回数 ②児童アンケ ート ③授業での活 用回数	①思考ツールを活 用した授業 低：月1回以上 中高：月2回以上 ②肯定的回答 90% 以上 ③教師用：毎日使用 児童用：1年週2日 以上、2年～6年： 週4日以上	①思考ツールの活用 低：月1回以上 中高：月1.5回以上 ②スタンダード 88.6% (92.2) ③機器の活用 教師：週5日毎日活 用。 児童：1年は週2日程 度。2年以上は週4～ 5日活用している。	・思考ツールは用紙 からジャムボード へ移行し活用しや すくなった。 ・スタンダードに基 づいた授業は全教 員ができていたが まだその質には差 がある。 ・ICTは教師も児童 も当たり前のように 活用している。	○

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成				
A	今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	

児童の豊かな人間性を育成	目標実現に向けた取り組みの実施結果が、4項目とも「おおむね達成」以上	4項目とも「おおむね達成」以上であった。	コロナ禍ではあったが、様々な活動を実施し明るい心で学校生活をくれるよう工夫してきた。状況にあった他所との交流を充実させていきたい。	○	
B 目標実現に向けた取り組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつの励行	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート あいさつの項目での肯定的評価 95%以上。 あいさつ名人 各学級 3割以上、全校 100人超 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ強化週間の実施 場や状況に応じたあいさつの指導 (アイコンタクト、会釈等) あいさつ名人の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 「あいさつ肯定的な評価」 90.3% (88.3) 「あいさつ名人」 3割以上の学級 全学級 全校で 189人 (190) 	<p>コロナ禍でマスクをしているがあいさつや会釈ができる児童は多い。廊下ですれ違う時も挨拶ができる児童が増えている。来校者へのあいさつは今後も課題である。</p>	○
人とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 「友達を大切にできた」 肯定的評価 95%以上 「他者と適切に関われた」 肯定的評価 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止に配慮した交流 ZOOMを活用した交流活動 人権教育、道徳教育の充実 お世話になった人への手紙 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 「友達を大切にできた児童」 95.4% (95.9) 「他者と適切に関われた児童」 95.4% (95.8) 	<ul style="list-style-type: none"> ZOOMによる交流と直接交流により他学年との関わりが深まった。 運動会や展覧会などの全校行事も工夫して行い、評価は良好だった。 	○
安全で美しい学校	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「清掃と整理整頓」 肯定的評価 90%以上 廊下歩き名人 各学級 3割以上、全校 100人超 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策の徹底 当番による放課後清掃の実施 廊下歩き強化週間の実施 毎月の安全点検 栗原スタンダードの徹底 多様な想定避難訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート 「清掃と整理整頓に関する項目」 70% (76.3) 「ろうか歩き名人」 3割の学級 全学級 全校で 147人 (108) 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策をはじめとした環境整備は9割以上の保護者が評価しているが、清掃については昨年同様、放課後に当番のみの実施になっているため、児童自身の意識は低かった。 	○
いじめ防止 不登校への早期対応	<ul style="list-style-type: none"> いじめ解消率 100% 不登校 0% 児童アンケート 「学校は楽しい」 肯定的評価 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> QU調査の2回実施、分析 毎週生活指導連絡会を実施 年2回の教育相談全体会 子ども相談日の設定 人権標語、いじめ撲滅標語 ふわふわ言葉の推奨 	<ul style="list-style-type: none"> 1月末いじめ認知件数 51件 (73) であり、現在重大事案に発展したものは無い。解消済 48件、3か月継続観察中 3件である。 不登校率 0.6% (0.7) 児童アンケート「学校は楽しい」 88.6% (89.3) 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ認知件数は昨年度より減少している。発生した場合は全職員で共有し即時対応している。今後も学校全体で未然防止、早期解決に努める。 ICT機器を授業で使うようになり登校渋り傾向の児童が登校するようになった。不登校児童へのICT機器の活用も今後進めていく。 	○

重点的な取組事項－3		たくましい体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自らの健康と体力の向上を目指す児童の育成		目標実現に向けた取り組みの実施結果が、3項目とも「おおむね達成」以上	3項目とも「おおむね達成」以上であった。	課題種目については向上させることができた。自身の運動や健康の課題を自覚し自己調整力を育てていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育授業・体育的活動の充実	・児童アンケート「運動が好き」の項目で肯定的評価93%以上、運動が好きではない児童を3%以下。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科授業での環境設定の工夫（場、用具、ルール等） ・栗原タイムの計画的実施 ・全学年でオリパラ教育の充実 ・コロナ禍に対応した授業、行事の工夫 ・運動環境の工夫（外遊びの確保、上履きの校庭使用等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート 「すきな運動が3つ以上」 90% (84.9) 「好きな運動が1つもない」 0.3% (3.5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差を考え、好きな運動の数で検証。1つもない児童は1名。好きな運動から多様な運動へ運動を広げていく。コロナ禍で個人種目が多いため、仲間と楽しむ機会を設定していく。 	○
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジの区目標記録の平均75%以上達成 ・長座体前屈、ソフトボール投げのTスコアで都平均を上回る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわ記録会 ・短なわ週間 ・持久走週間、記録会 ・「パワーアップカード」による家庭との連携 ・ストレッチ運動の励行 ・投げ方教室による投力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・長なわチャレンジ目標記録 2月初現在、3月記録会予定 75%以上達成8学級(9) 平均達成率81.1% (76.3) ・長座体前屈のTスコア 都平均の103.6% (98.8) ・ソフト投げのTスコア 都平均の102.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月現在75%を越す学級は8学級。1学級が区目標記録達成。3月に記録会を予定。 ・課題種目の長座体前屈、ソフトボール投げはともに都平均を上回った。引き続き向上を図っていく。 	○
食育・保健指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「自分の健康への関心」で肯定的評価95%以上。 ・給食残菜率0.5%未満 ・ベジファーストの実施率95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断時の養護教諭の保健指導、給食時の栄養士の食育指導 ・セレクト給食、リクエスト給食、行事給食等の実施 ・食育授業、最初に食べるとよいメニューの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの健康を考え、健康管理に努める児童 90% (95) ・給食の残菜率 0.7% (0.5) ・ベジファーストの実施率 91.7% (89.2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康への意識は90%ある。友達との距離がなかなか守れないようである。 ・残菜率は区平均3%を継続して大きく下回る。 ・ベジファースト率は昨年度より増加。意義は理解しているが食べたいものから食べる児童が若干いる。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】・国語も算数も通過率でみると昨年度より向上し、目標を達成できている。区の平均も上回っている。学年でみると2年生国語の通過率が % であり、区の平均とほぼ同じ程度である。学年の傾向としては文章読解に課題が見られる。また全校百ます計算では学年の達成目標をクリアした児童は74%と他学年と比較しやや低い。1学級の人数も多いため、担任だけでは未通過児童へのサポートが薄くなってしまう。

・低学年においては、読解力と読書量の相関関係が強くみられる。文字をすらすら読めず、読むこと自体へ苦手意識があると考えられる。

【対策】・授業では、読取りの際に重要な箇所や必要な箇所にサイドラインを引かせるとともに、気付いたことを書き込んでいくなど、大事な部分や考えが可視化し、深く読み取れるようにしていく。算数では、低学年においても少人数による習熟度別指導を充実させ、今後はe-ライブラリやAIドリルなども活用しながら習熟させていく。また、MIM指導を一層充実させ、2年生でも継続して指導し、読みのつまづきを早期に解消していく。

・補習学習では、初見の物語や説明文を使い、読み取りの方法について丁寧に指導するとともに、練習量を確保していく。また担任だけでなく管理職や専科教員もサポートに入り、MIM指導など個に応じた指導を充実させていく。

イ 豊かな人間性の育成について

・昨年度から引き続き、コロナ禍の影響が非常に大きかったが、その中でも「できることをやる」ことをモットーに、運動会や展覧会、校外学習、異学年交流など学校行事や活動を工夫して行ってきた。人数制限がある中、1年生と他学年と一緒にドッジボールをする姿や一輪車に乗る姿なども見られ、他者と関わり、学校生活を楽しく送ることができた児童が多かった。今後は、校内の人とのかかわりに加え、校外の人とのかかわりを増やし、多様なコミュニケーションの機会を作っていくことが課題である。

ウ たくましい体の育成

・昨年度の体力調査における課題種目については、今年度の調査では向上が見られた。コロナ禍ではあるが、運動会、水泳指導等を実施し、工夫して運動の幅を増やしてきた。しかし、まだ個人種目が中心になってしまうため、仲間と協力しながら運動を楽しむ経験を今後は増やしていく。

・食育については、ベジファーストや残菜を少なくするという意識は育ってきている。コロナ禍であり、給食時は一年中黙食であり、仲間と楽しく食べるという感覚を忘れつつある。そんな状況の中でも笑顔で給食を食べる児童をたくましく感じる。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

保護者の皆様には、コロナ禍で教育活動の十分な公開もできない中でも、本校の教育活動への深いご理解とご協力をいただき、感謝しております。臨時休校中、また選択登校中の児童の健康管理やリモート学習のサポートなど、ご家庭の支えのおかげで今年度の教育活動をやり遂げることができました。オンライン授業公開や保護者会など、今までとは違う形を取り入れながら、今後も連携していきたいと思っております。学校行事については、時代にあった形に変更が必要なものが多々あります。環境の状況とニーズのバランスを考えながら、今後検討、実施していきます。

地域の皆様には、児童の見守りや地域学習への協力等、陰に日なたにご支援をいただきありがとうございます。コロナ禍で学校行事等にご招待できない日が続いておりますが、来年度は創立80周年の節目でもあります。引き続き栗原小学校の児童のためにお力添えをいただければ幸いです。

(3) その他(学校教育活動全般について)

今年度も、昨年度から引き続きコロナ禍で多くの制限がある中での教育活動だった。一方で臨時休校の対応等でICT機器の一人一台配備、GIGAスクール構想が一気に進んだ。本校には9月から配備されたが、わずか半年で低学年から高学年まで上手に学習に活用することができている。ローマ字をまだ習っていない2年生がローマ字入力のタイピングソフトに夢中に取り組んでいる姿に、自ら学ぶ意欲の大切さを改めて感じた次第である。児童一人一人がこれからの時代を生き抜くために必要な力を十分に身に付け、持続可能な社会の担い手と成長できるよう、教職員一同力を合わせて、来年度も取り組んでいきたい。